医師は語る

医療法人社団
健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

免疫力について考える

何十年も風邪に罹ったことがない、という人がいます。とても羨ましいです。こういう人は、いわゆるウイルスに対する免疫力が丈夫なのだと思います。私のこれまでの診察から判断すると、免疫力の半分は持って生まれたものだと思います。残り半分が、日々の生活内容によって決まります。

もし生まれながらにして免疫力が弱いとしても、日々の生活で改善することができます。ただ個々人で、自分の免疫力を調べておく必要があります。たとえ免疫力が弱くても自覚症状に出ない場合も多いです。免疫力の調べ方は沢山ありますが、簡便かつ分かりやすさ、また検査費用や検査時間なども考えると、これまで適当なものがありませんでした。

私は図1、図2に示すような免疫力の評価法を作りました。これは長年の診察から得たものですが、大まかにどんな病気に罹りやすいか、また罹っている病気が治りやすいか否かを判読することができ、とても便利です。

免疫力が丈夫で如何なる病気にも罹り難い場合はAの領域になります。Bの領域はやや免疫力が悪い領域です。Cの領域は免疫力が悪く、血管の病気が多く見られます。例えば脳卒中や心筋梗塞です。Dの領域は、やはり免疫力が悪くウイルス感染症、がん、膠原病などで多く見られます。

昨年十二月ごろから世界中で流行りだした新型コロナウイルス感染症では、中でも重い症状に陥った方では、恐らくDの領域にあったはずです。実はもともとDの領域にあった方がウイルス感染をうけると、そのことによってさらに免疫バランスが悪化します。例えばDの網目領域です。こうなりますとウイルス（実際はウイルス感染細胞）を撃退する力が無く、一種の免疫不全状態です。さらに厄介なことに、免疫力が悪いほど免疫細胞から炎症性物質が出過ぎてしまい、病状を一段と悪化させます。ときに快復困難になります。

私たちは日頃から自分の免疫力を調べ、丈夫でないと分かれば徹底して回復の努力をしておくべきです。免疫力を盤石にしておけば、もし明日に新型コロナウイルスのさらに新型が出現したとしても、十分克服できます。

私は還元電子治療の研究をライフワークとしています。これまでの研究から低下したリンパ球の増加とリンパ球活性の回復に対し、還元電子治療の実践は極めて重要と考えています。併せてリンパ球のエネルギー源がグルタミン（アミノ酸）であることから、健康食品での摂取を推奨しています。どうか皆さん、どんな病気をも乗り越え、生涯楽しい人生を送りましょう。

図1　免疫バランス評価シート1“数”

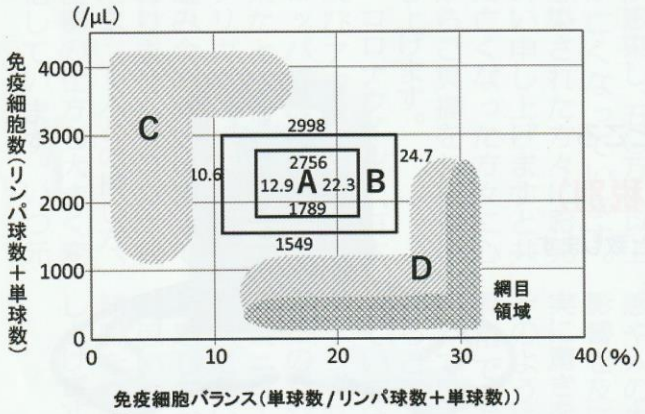
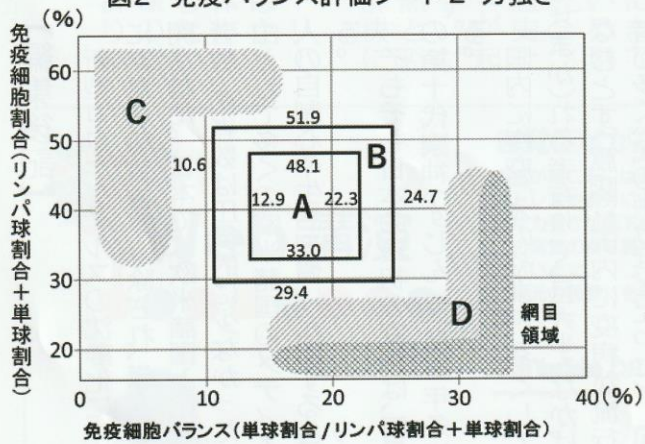


図2　免疫バランス評価シート 2“力強さ”



還元電子治療器

【堀口裕先生プロフィール】
北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。